



まち育ての伝道師

延藤安弘さん

(愛知産業大学大学院教授)



げん とう かい
幻燈会

みんなで楽しくまちを育てよう！

実施概要

1. 日 時 : 平成 21 年 7 月 11 日 10:00~12:00
2. 会 場 : 江別市民活動センター・あい 2F 大会議室
3. 受講人数 : 37名
4. 講 師 : 延藤安弘氏 (NPO法人まちの育み隊 代表理事/愛知産業大学教授)
5. プログラム : 10:00~11:30 幻燈会 市民が主役で元気が出る「まち育て」事例をみる
11:30~12:00 意見交換
12:00~13:30 交流会
6. 主 催 : 江別市 ※ 意見交換会はNPO法人えべつ協働ねっとわーくが主催

セミナー実施のねらい

講師の延藤安弘さんは、まちは市民の手によってつくられるもの、それを『まち育て』と呼びます。この講演を通じて、「まち育て」を簡単に、楽しく、持続する、始める方法を会得します。

また、セミナー終了後に、参加者相互が交流を図る「場」(意見交換会)を行い、相互連携と、よりパワーアップされた活動の促進を図ります。

セミナーの内容

◇ 幻燈プログラム

① 絵本の紹介

受講者の心が開くよう、まずは2つの絵本の紹介から始めました。

・ 市民がかかわらずに放置すると……

子どものころ、楽しく魚釣りやトンボを追いかけた川や野原が、いつの間にか、高速道路が通り、工場が出来た。経済的に豊かな社会を創ろうとした行為が、豊かな自然を壊して行く。社会における「豊かさ」って、いったい何だろう。私たち市民は、そういった行為をだまってみていいのだろうか。そういった疑問を我々に問いかけてくれました。

(絵本 「変わりゆく風景」 イエルグ・ミュラー作 ドイツ)。

・ 市民がかかわり、子どもの育ちとまち育をつなぎとめると……

少女の夢「緑いっぱいのもちで暮らしたい」が実現となるお話です。「いろいろな苦労や難しさはあるけれど、周囲と仲良くし(コミュニティを大切に)夢を持ち続け、それを地域住民によって育み続けることが重要。」ということ、少女の夢を背に、ファンタジックに、ほのぼのと語ってくれました(絵本 Jeanie Baker “Belonging”)。

② 古い木造住宅を守り育む活動からまちの縁側MOMOへ

名古屋東区にある古い木造家屋「撞木館」を保存する運動（「撞木館育み隊」）から、人々が出会い楽しみながらまちを育む活動「NPOまちの縁側育み隊」となった事例を紹介され、「みなさんのまちにも是非縁側を…」とのメッセージをいただきました。

- ・ 「まちの縁側」とは何かが喚び起こされる場所
- ・ 縁側に、内と外が溶ける安らぎがあるように、「まちの縁側」は、子どもと高齢者、生活者と専門家、市民と行政の出会いの場所。
- ・ 縁側が、休息にも応接にも仕事にも使われたように、「まちの縁側」は、生活も福祉も教育も建築も景観も文化も混ざり合う場所。
- ・ 縁側で、お互いがうちとけて話し合えるように、「まちの縁側」は違う価値観や経験と持ち味を持った人々の対話の場所



江別における「まちの縁側」は、「江別市民活動センター・あい」であれ！

③ まちのタカラさがしからまち育てへ

高知県香南市(赤岡町)のまち育てを紹介。赤岡町は、歴史のある町だが、そこに住む人々はその良さを分からずに、衰退するまちを危惧していた。そこで登場したのが、専門家集団（「風の人」）。まちの良さを人々に見直してもらい、愛着を持ち自主的にまちを育む取り組みを始めました。子どもたちと一緒にまち歩きタカラものを見つけ、それを「赤岡カルタ」に。まちに古くから伝わる絵金を活用した“絵金まつり”。商店街が趣向を凝らして行う“冬の夏祭り”。大好きなまちの「まち育て」。

『江別にもタカラものがたくさんある。それを探してみんなで楽しくまち育てをしよう！』 力から強いメッセージがありました。

◇ まとめ

- 今回の延藤先生のお話の骨子は、市民が主役のまちづくり（「まち育て」）を行うに際して、市民が持つべき心構えと、その方法についてのお話でした。
- 「まち育て」は、「タカラさがし」から行うのも効果的な一つの手法。
- 結論としては、まち育ては難しくはない。いろいろな人々が楽しく行うもの。人々が出会い、つむぎあうまち育てを行う場「まちの縁側」を設けるとよい。

以下、先生がホワイトボードに参加者へのメッセージとして記述した内容です。

<これからの市民活動のキーワード>

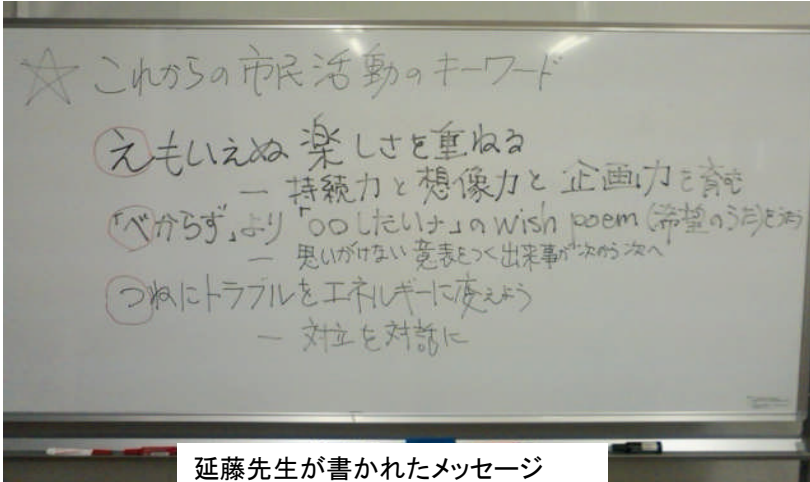
- **え**もいえぬ楽しさを重ねる
～ 持続力と想像力と企画力を育む
- **「べ**からず」より「〇〇したいナ」の Wish Poem（希望のうた）を
～ 思いがけない意表をつく出来事が次から次へわきあがる
- **つ**ねにトラブルをエネルギーに
～ 対立を対話に

※ 最初の文字をたてに読むと、「えべつ（江別）」でした。

◇アンケートに見る参加者の感想

- ・誰かがやってくれるのを待つのではなく、自ら行動すること。宝物を見つける楽しい仕掛け。
知るだけで終わりにしないで、守り育てていく。いろんな人と柔らかくつながり楽しさを共有すること、ステキだと思いました。
- ・人々がつながる仕掛け、誰もが楽しみながら参加できる方法を知りたい。柔らかな発想が大切！
- ・まちの宝探し、町ごとにできるかもしれない、やってみたい。

「幻燈会」講演を写真で紹介



延藤先生が書かれたメッセージ



講師の延藤安弘先生



会場の様子

話に花が咲いた交流会



ランチを食べながら交流

